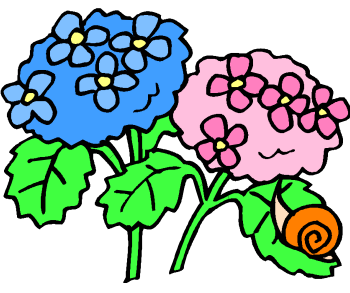


# それゆけ！

# としよかんだより



2010年6月

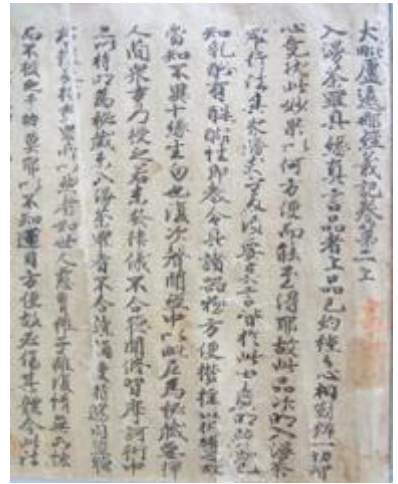
**第38号**

発行所  
高野山大学図書館  
閲覧室

古典籍逍遙
【第四回】
図書館長 武内孝善

『大毘盧遮那経義記』卷第二上 一卷

【書誌データ】  
 卷子装、一卷、平安末期写、たて 27.1センチ、全長 2055.1センチ(本文 37紙)、  
 墨界(界高 24.9センチ、界幅 1.9~2.0センチ)、斐紙、表紙(こげ茶色・後補)、  
 軸(後補・軸の頭紫檀)、虫損大、桐箱入り



今回とりあげるのは、『大日経』と略称される『大毘盧遮那成仏神変加持经』の注釈書の  
 一つ『大毘盧遮那経義記』(以下、『義記』と略称す)一卷です(図版は巻首と朱印)。

『義記』なる名称をもつ注釈書が存在したことは、九世紀のころから知られていましたが、  
 その実物が伝存することは最近にいたるまで明確でありませんでした。したがって、『義記』  
 は幻の書といっても過言でないでしょう。その『義記』の写本が、本学図書館に所蔵されて  
 いたのでした。今日、『義記』の写本は二つしか知られていません。一つは青蓮院吉水蔵本(十卷現存・平安末写)であり、あと一  
 つが本学の写本です。つまり、世界に二つしかない写本の一つがこの写本であり、極めて貴重なものといえます。

ここで、『大日経』の注釈書について、その概略を述べてみましょう。五大院安然の撰になる『諸阿闍梨真言密教部類総録』(略  
 称『八家秘録』)によると、わが国に請来された『大日経』の注釈書は八種あったといいます。その名称と巻数、および請来者を  
 記すと、つぎのようになります。

- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| 義記……(1)大毘盧遮那経義記十卷・玄昉、       | (2)大毘盧遮那経義記七卷(上・下十四卷)・徳清、 |
| (3)大毘盧遮那経義記七卷(上・下十四卷)・最澄治定、 |                           |
| 疏……(4)大毘盧遮那経疏十四卷・空海、        | (5)大毘盧遮那経疏二十卷・空海、         |
| 義積……(6)大毘盧遮那経義積十四卷・円仁、      | (7)大毘盧遮那経義積十四卷・円珍、        |
| (8)大毘盧遮那経義積十卷・円珍、           |                           |



名称からは、『義記』(1)~(3)、『疏』(4)(5)、『義積』(6)~(8)の三種類に分類することができます。

このなか、今日も完本が伝存しているのは、空海が請来した(5)『大日経疏』二十卷本、円仁請来の(6)『大日経義積』十四卷  
 本、円珍請来の(8)『大日経義積』十卷本の三つです。

さきに記したように、空海以前に請来されたといわれる『義記』類は、その所在が確認されていなかったことから、はたして  
 そのような注釈書が存在したかどうか疑われてきました。それは、天平7年(735)に帰国した玄昉(げんぼう)が伝えたという『義  
 記』は、正倉院文書には一切見いだされなかったからです。しかし、ここに『義記』の写本が二つ見つかったことから、『義記』  
 なる名称をもつ注釈書が存在したことは間違いありません。ここで新たな課題が出来(しゅったい)しました。それは、二本の写  
 本は『義記』(1)~(3)のうちのどれにあたるのか、です。

それはさておき、この写本には朱筆の書き入れがありますが、文字の異同を記した校合(きょうごう)註と区切り点だけであり、  
 残念ながらルビは見あたりません(青蓮院本も同じ)。なお、巻首に「高山寺」の朱方印が捺されており、かつて高山寺に所蔵さ  
 れていたことが判ります。

最後に、この写本を利用するとき留意すべき点を記しておきます。本文は、三十七枚の紙を貼りついで書写されていますが、  
 一度糊がはがれたのでしょう。その後修理したとき、紙の順番がまちがって貼りつがれています。

# 図書館の歴史(2)

図書課職員 木下浩良

前回の図書館の歴史は第37号に掲載しています！

現在の図書館は、昭和4年(1929)に完成しました。図書館の仏教学研究室には、「東大印度哲学研究室分室」の木札が掲げられていました。本学の夏学期の教授として、東京帝大の木村泰賢・宇井伯壽等の先生が招聘されていたからです。

図書館の設計は京都帝大教授の武田五一博士でした。武田博士は近代日本建築家を代表する一人で、「関西建築界の父」といわれています。国会議事堂をはじめ、多くのプロジェクトに関与しました。施工は清水組京都支店で、高野山で初めて建てられた西洋建築でした。

図書館の建築は、弘法大師御入定千百年御遠忌事業により完成しますが、本学同窓会がそれより以前の大正15年(1926)3月から建設費の寄附金募集に高岡隆心学長(高野山明王院主)を中心として活動を始めました。高岡学長の顔を見るなり何も言わずに1万円(現在のお金で換算すると5000万円程となります)の寄附金を提供された寺院もあったといわれています。わずか数ヶ月のうちに、17万円の寄金が同窓会の下に集まりました。

同15年は、本学が旧制大学に昇格した記念すべき年でもありました。全国で、帝大6、官公立大10、私立大学21の都合37大学の時代でした。関西では、同志社・龍谷・大谷・立命館・関西大学について、6番目にできた私立大学でした。

同年10月、宗会において図書館建設が御遠忌事業に組み込まれることが決まると、本学同窓会は図書館建設委員に代表を送ることで、直接事業に携わることになりました。その2年半後に、図書館は開館式を迎えます。東洋一と称された図書館の完成でした。(つづく)

## 図書館通信

### 平成22年度第1回図書館文化講座のお知らせ

平成22年度第1回図書館文化講座「文化財建造物のいろは-金剛三昧院の修理現場を通じて-」を下記の日程で行ないます！

講師は和歌山県文化財センター結城啓司先生です。

5月27日(木) 16:40~17:30 高野山大学本館205号室

学生さんも一般の方も自由に参加していただけます！

当日、直接205号室にお越し下さい。多数のご参加お待ちしております♪



### 図書館ミニコーナーについて

図書館閲覧室カウンター横にて、「本学関係者(在校生・卒業生)出版物」コーナーを設置しました！在校生・卒業生の方々の出版物を紹介しております！貸出もできますのでこの機会に是非ご利用下さい。

### マンガ版図書館利用案内について

図書館HPに、新たに「マンガ版図書館利用案内」を追加しました！！

図書館HP→利用案内→マンガ版図書館利用案内でご覧いただけます。



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	1	2	3

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

	9:00-18:00		13:00-18:00
	9:00-17:00		9:30-16:30
	9:00-12:00		閉館

切り取り

(編集後記)

今年度も図書館文化講座・ミニコンサートを開催いたします！

図書館のHPや「それゆけ！としょかんだより」で随時お知らせいたします。皆様のご参加お待ちしております。

(石原)

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385高

野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp